

(2) 果 実

全体の動向と見通し

3月と4月の実績

区分 品目	3月の取扱実績(計)				4月の旬別取扱実績							
					上旬				中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	49,814	92.9	345	107	13,339	93.2	367	108.3	14,420	93	331	100.2
みかん	2,992	46.7	247	140	187	29.5	321	146.6	32	14.9	918	344.4
いよかん	7,252	103.0	168	169	255	37.5	179	203.7	68	41.6	160	224.5
りんご類	5,538	78.6	298	118	1,560	81.3	311	106.9	1,563	85.4	310	101.2
いちご類	7,500	114.0	946	84.4	2,102	105.0	946	95.6	2,184	109	689	76.6
メロン類	1,125	85.2	989	105	512	81.4	747	109.6	886	89	618	95.1
すいか類	619	65.0	368	117	549	83.8	361	122.6	857	82.6	329	110.0

概況

4月の果実は、いちご、りんご及び晩柑類が主力。これらが総体の約5割を占める。前半はこれら越年品目を中心に、供給増となったことから、前年比3割増入荷で単価約3割安の大幅安値で推移した。

今年はみかん、りんご類の不作が尾をひいて、みかん類が前年の半減。りんごの在庫もやはり70%程度となり、好市況が続いた。

また、野菜的果実のメロン類も、熊本など主産県の作付減と、後続茨城の作柄遅れで少なめの入荷、好市況。いちごは順調な入荷ながら、気温上昇で傷み発生など品質評価低調で、前年比1割程度の安値。

総体的には、前年とは対照的に入荷減の単価高で推移した。

(5月の見通し)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
大玉すいか		8,760	95	7,837	169	110	223	-	-
こだますいか		2,217	100	1,991	263	100	326	291	13
メロン (プリンス)		697	95	747	284	105	349	-	-
メロン (アンデス)		3,246	95	3,209	379	105	463	-	-
さくらんぼ		253	105	216	2147	95	2543	22	9
りんご (ふじ)		3,290	60	3,319	3331	110	329	-	-

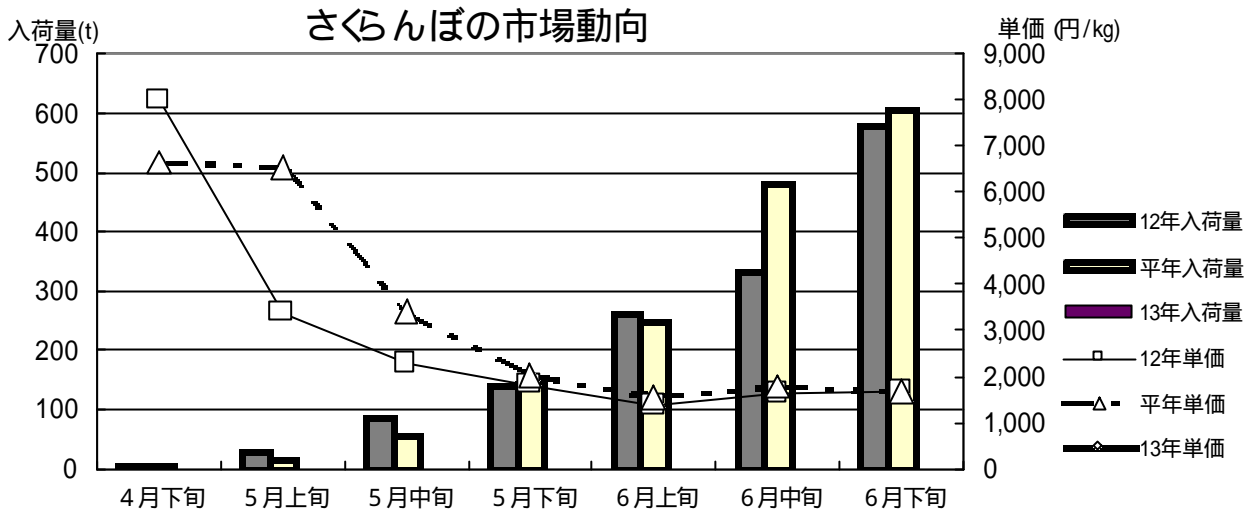
概況

5月の果実類は、季節に先駆けて、いよいよ初夏の味覚が勢揃いする。筆頭のすいか、メロン類は、総体の4割を占め、山形のさくらんぼの話題も日を追ってにぎわってくる。主力とは言えないまでも晩柑類が少ない分、5月の総入荷は約1割減、価格は品質次第だが、平年の水準を維持できれば1割高を予想。

しかしながら、外国産果実の輸入攻勢を勘案すれば、健康、安全、安心、おいしさなどの商品評価向上がポイント。そのうえ、組織的な計画出荷、安定供給で、国際競争力に対応できる体制を確立し、有利販売を展開したいものだ。

さくらんぼ

(1) 4月の販売状況



4月は、長野産、山梨産と本県産で大半を占める。本県からの入荷が前年を大きく上回っていることから全体の入荷量は前年をやや上回っている。長野産は、3月に前年の4倍の入荷があったことから、中旬に入って入荷が前年を下回った。

価格は、上旬、中旬とも前年並で推移している。ただし、本県産にやや”うるみ果”が見られたことから、市場からは品質に対する不満の声もあった。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平均単価は5カ年単価の単純平均。

4月中旬まで、入荷量が少なく、販売単価が発表されない(単価表示*)。米国産含む

(2) 5月の見通し

本県産ハウス連休明けに本格化 品質で勝負

入荷量
230 t
前年比 91%
平年比 107%

価格
2100円/kg
前年比 98%
平年比 83%

旬別相場予想推移	
上旬	▲
中旬	▶
下旬	▲

米国産を含む。

本県産はハウスものの生育が早く出荷が前進しており、連休明けから本格的な入荷がはじまる。入荷量は、前年並と予想される。

山梨県産ハウスものは連休をはさんだ出荷ピークとなり、露地ものが下旬から入荷する。いずれも結実、玉張り順調と伝えられており、入荷は前年を上回る予想。長野産は出荷前進化のため前年を下回るか。

価格は、果実の販売状況はりんごと柑橘類が品薄のため堅調だが、一般的な消費不調のため、前年並からやや下げと予想される。

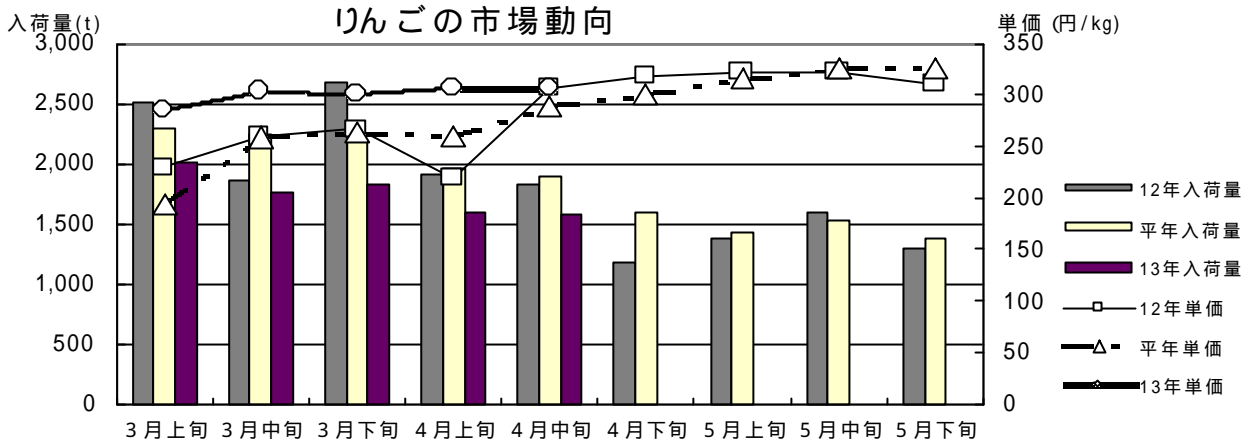
いずれにしても、連休後の入荷増時の品質管理がポイント。また、従来の箱出荷と合わせ100gバラ詰めフレキシブルな出荷形態をのぞむ声が市場関係者から多く聞かれる。

前年入荷の86%を占めた米国産については、カリフォルニア州産は生育順調と伝えられており、動向が注目される。

りんご

(1) 4月の販売状況

上旬	入荷量： 1,592 t (前年比 83)	価格： 307円/ kg (前年比 140)
中旬	入荷量： 1,586 t (前年比 87)	価格： 307円/ kg (前年比 100)



4月の入荷のほとんどが青森産のCA貯蔵品。3月の入荷が前年の8割を切り、4月も前年の82%程度となっている。

価格は310円/kg程度で安定している。

なお、韓国産が4月に入って90 t入荷している。販売単価は上旬114円/kg、中旬76円/kgであった。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

ふじを含むりんご類を集計値。

(2) 5月の見通し

入荷量
2,600 t
前年比 61%
平年比 60%

価格
320円/ kg
前年比 100%
平年比 99%

旬別相場予想推移	
上旬	→
中旬	→
下旬	→

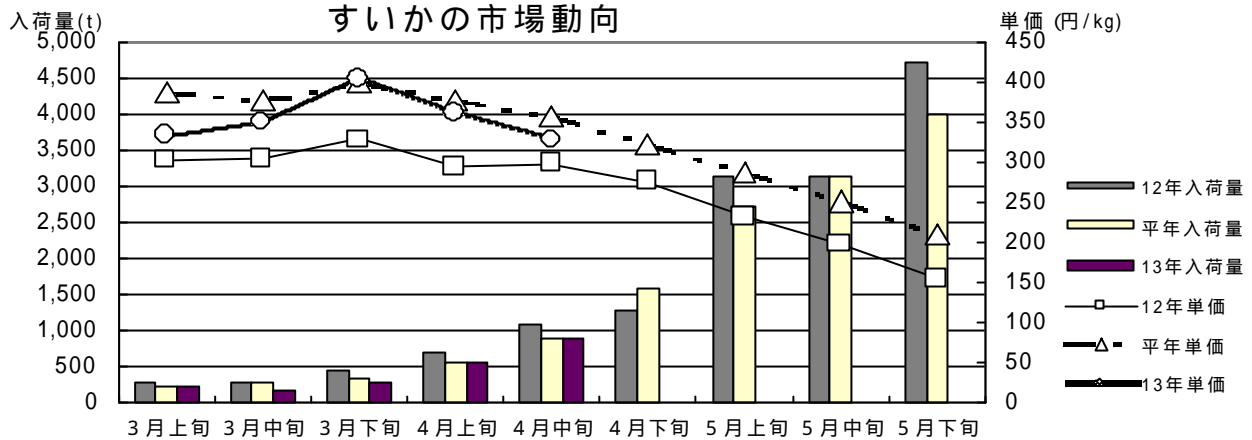
前年5月の入荷は、ほぼ100%青森産のガス冷蔵物が占める。産地の在庫が平年より少ない状態が続いており、入荷は前年を大幅に下回ると予想される。

価格は「ふじ」が350円程度、その他が300円程度と予想される。

すいか

(1) 4月の販売状況

上旬	入荷量： 552 t (前年比 82)	価格： 361円/ kg (前年比 123)
中旬	入荷量： 867 t (前年比 81)	価格： 328円/ kg (前年比 110)



すいかの産地は、北海道から九州、沖縄まで全国に渡りリレー的に入荷が続く。冬場は沖縄からスタートして、続いて熊本が3月から5月にかけて高いシェアとなる。

今年の4月は、冬場の寒波低温等によって着果が3割減。肥大はやや回復したものの、最終的には前年比2割弱の入荷減となった。

したがって、価格は同1～2割高となったが、例年よりも糖度不足(11度)で販売に苦慮した。4月下旬から軌道に乗り、これから盛期へと移行する中で、品質向上が期待されている。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。単価は5カ年単価の単純平均。

データはすいか類の集計値。

(2) 5月の見通し

急増なく安定価格

入荷量
8,500 t
前年比 97%
平年比 108%

価格
186円/ kg
前年比 110%
平年比 83%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：
すいか

すいかの生産は天候に左右されやすいが、消費も天候に大きな影響を受けやすいため、まずさわやかな五月晴れを期待したい

主力の熊本は、連休後にピーク入りし、千葉は下旬ごろピークとなりそう。

4月よりも糖度の乗りを期待されているが、最近韓国からの輸入ものが増加し、糖度、シャリ感も良いという話題もある。

輸入すいかは、平成10年1,148t(137円/kg)、11年1,460t(132円/kg)、12年2,729t(120円/kg)であった。この時期の新たなライバルがあらわれた。

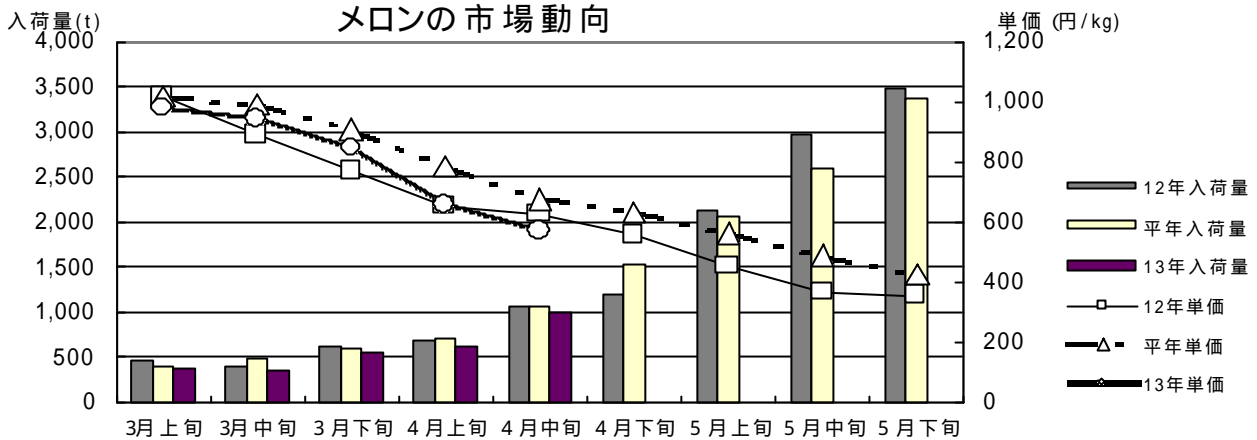
そのためにも、土づくりや適切な管理で食味向上に努めたい。

主な生産県の入荷見込み(5月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
熊本県	7,142	82%	97%	県下の作付けは97%。作型は後半にずらしており4月後半から本格化。ゴールデンウィーク後にピークとなる。
千葉県	1,173	13%	100%	5月20日頃から始まるが平年並ペース。作付けも前年並み。やや小玉傾向。

メロン

(1) 4月の販売状況

上旬	入荷量： 604 t (前年比 90)	価格： 655円/ kg (前年比 101)
中旬	入荷量： 980 t (前年比 93)	価格： 572円/ kg (前年比 92)



山形の主力品種と言えばアンデスメロン。全体でもアンデスは、メロン類全体の年間入荷量の6割弱を占める。

さて、4月の主力産地は熊本と茨城で、この2県で9割をしめる。今年は、熊本の作付け面積が前年比1割減。茨城は5%減。この2～3年の市況関係の不安から、他品目への転換が伝えられている。

加えて、1～2月の低温の影響で草勢の衰えが目立ち、小玉傾向もあって、4月の入荷量は両県をあわせて前年比約2割減。価格は前年並となった。

このような中、茨城ものは4月23日ころからの初荷で2L、LA5kgもので4,500円と高価格でスタートを切った。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

データはメロン類の集計値

(2) 5月の見通し

おいしさを団結でアピール

入荷量
3,084 t
前年比 95%
平年比 96%

価格
400円/ kg
前年比 106%
平年比 86%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：アン
デスメロン

昨年5月は、先発の熊本産と、後を追う茨城産が重なって、ここ数年来の安値となったが、今年は両県の競合による価格の崩れはなさそうだ。ただ、出遅れた茨城産が5月下旬に集中するようなことになれば赤信号が点灯する。

そのためにも、消費不況の時代であることから、高品質と値頃感を打ち出し、おいしさのアピールなど、情報戦略を早めに仕掛けることが必要だろう。

主な生産県の入荷見込み(5月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
茨城県	2,788	86%	90%	1～2月の低温の影響で生育は7～10日程度の遅れがみられる。5月上中旬出荷のものは小玉傾向であるが、下旬出荷は平年並。最盛期は昨年より10日遅れで15日からとなる。
熊本県	392	12%	100%	作付面積1割減。4月までの遅れを回復中。4月下旬から5月10日頃までがピーク。